

科目名称：	子ども家庭支援論	
担当者名：	五十嵐 峰子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
<p>子どもは、家庭、地域社会、社会制度という環境の中で育つと言われている。その子育てする家族に焦点を当て、現代の家族が抱えている問題や課題を探りながら子育てを取り巻く環境を理解し、子どもの幸せを実現することを望み安定した子育てのために家族支援、地域の子育て支援を学んでいきたい。私たちは現場で通用する「家庭支援」の基本を学び常に考えていきたい。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>1. 子育て家庭を取り巻く現状を把握し、子育てをめぐる問題とその背景について理解する。 2. 現代社会における子育て家庭の支援体制について理解する。 3. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と保育所や地域との連携について理解する。</p>		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP (1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP (2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	
DP (3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	○
DP (4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP (1)					0
幼児教育DP (2)					0%
幼児教育DP (3)		60%	30%	10%	100%
幼児教育DP (4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容 1》	《経験年数 1》
	《内容 2》	《経験年数 2》
	《内容 3》	《経験年数 3》
	《内容 4》	《経験年数 4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 概要説明と導入・家族とは	家族についての自分のイメージを考えておく。	40分
第2回 家庭支援が求められる背景・家庭とは	「子育て支援」の教科書を読み直し、さまざまな家庭があることを確認しておく。	30分
第3回 家族関係図(ジェノグラム:エコマップ) 家族成員の表し方(グループワーク)	自分の家族について、まとめておく。	30分
第4回 家族が抱える子育ての悩みと問題点	「現代の子育てにおける悩み」についてネット検索にて情報を得ておく。	30分
第5回 家族を取り巻く社会の動向と家庭支援の必要性	新聞やネットから「現代の家族」について情報を得て、社会の情勢を文章化する。	30分
第6回 家庭の役割(家族の機能)とその変貌Ⅰ :核家族や少子化による支援(グループワーク)	自分の家族についての課題をまとめておく。	30分
第7回 家庭の役割(家族の機能)とその変貌Ⅱ :男女共同参画社会とワークライフ	昔の男女間の役割を両親か祖父母から情報を得ておく(働く女性等)	30分
第8回 子育て家庭と地域の関係	「地域とは」知っていることを書き出してくる。	30分
第9回 地域における子育て支援・実際	子育て支援における社会資源を調べておく。	30分
第10回 要保護児童家庭に対する家庭支援	「保護を必要とする子どもとは」について「社会的養護」の教科書を参照しておく。	30分
第11回 保育所・幼稚園における家庭支援 DVD観賞	DVD観賞後感想とレポートをまとめておく。	20分
第12回 家庭支援が必要な事例Ⅰ(グループワーク)	事例について、絵でのまとめを完成する。	30分
第13回 家庭支援が必要な事例Ⅱ(グループワーク)	事例を仕上げグループ毎に発表する準備をしておく。	10分
第14回 家庭支援の基本的姿勢・保育者の役割とは	学習した内容の発表の準備をしておく。	30分
第15回 小テスト総まとめ	テストの確認と解説をよく読んでおく。	30分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
小テスト60%・授業内レポートおよび授業中への積極的取り組み30%・発表と提出物の期日厳守10%

課題に対するフィードバック

課題に対しては確認後、Berrygood、good、OK、再提出、のゴム印を押し返却する。

教科書・参考書

教科書：なし 常時プリント配布